

22日 水曜

ヨハネ

6:60 これを聞いて、弟子たちのうちの多くの者が言った。「これはひどい話だ。だれが聞いていられるだろうか。」

6:61 しかしイエスは、弟子たちがこの話について、小声で文句を言っているのを知って、彼らに言われた。「わたしの話があなたがたをつまずかせるのか。」

6:62 それなら、人の子がかつていたところを上るのを見たら、どうなるのか。

6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

6:64 けれども、あなたがたの中に信じない者たちがいます。」信じない者たちがだれか、ご自分を裏切る者がだれか、イエスは初めから知っておられたのである。

6:65 そしてイエスは言われた。「ですから、わたしはあなたがたに、『父が与えてくださらないかぎり、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのです。」

6:66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去り、もはやイエスとともに歩もうとはしなくなった。

6:67 それで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいのですか」と言われた。

6:68 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」

6:69 私たちは、あなたが神の聖者であると信じ、また知っています。」

6:70 イエスは彼らに答えられた。「わたしが



あなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかし、あなたがたのうちの一人は悪魔です。」

6:71 イエスはイスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二人の一人であったが、イエスを裏切ろうとしていた。

ここでの弟子とは、単にイエスという先生の教えを求めていたくらいの人々でしょう。現代の教会においても、熱心だけれども信仰はあやしいという人もいますから、注意が必要です。自分の価値観に合っていると思えるうちは喜んで、集会や交わりにも参加しますが、何か合わないものがあると去ってしまいます。

何よりも大切なのは、その人がイエスを師としてではなく、主として全面的に信じて従っているかです。その基本が何よりも十字架なのです。

「いのちを与えるのは御霊です。」と主イエスが言われるように、十字架は御霊によってしか信じ受け入れることができません。

ですから御霊によって信仰に至ることができたのは、ただ主の恵であり、イエス様が「わたしがあなたがた12人を選んだのではありませんか。」と言われるのです。

信じていのちを与えられた私たちは、全能の神から選ばれた者です。また十二弟子のように尊い使命が地上において与えられているのです。感謝と誇りと自信をもちつつ、謙遜に使命を果たして生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

